

## 第2編 基本構想



- 第1章 基本構想の目的
- 第2章 基本理念
- 第3章 将来像(都市像)
- 第4章 基本施策
- 第5章 目標人口と土地利用



築山小学校 1年 小田 奈菜帆さん

# 第1章 基本構想の目的

基本構想は、玉名市のまちづくりに対するビジョンを示すとともに、達成に向けての基本方針を明らかにするものです。これから進められる計画及び諸施策は、すべてこの基本構想に基づいて実施されます。

# 第2章 基本理念

基本理念とは、将来像の実現に向けた基本的な姿勢をいいます。  
玉名市では今後10年間の基本理念を次のように定めます。

## 『信頼と勇気ある改革』

合併により新しい玉名市が誕生し、これからもずっと住み続けたいと思う魅力ある玉名を目指すとともに、市民と行政が信頼の絆を深め、市民の創意工夫により地域社会を築く、市民が主役のまちづくりを進めていきます。

一方、これからの市民と行政のあり方として、行政が、これから迎えようとする時代の流れや厳しい財政状況に的確に対応した行政運営、行政改革が求められていると同時に、市民一人一人が、思いやりと助けあいの精神をはぐくみ、地域や家庭の課題は自らの問題として自ら解決するという、積極的な姿勢が求められています。

このため、市民と行政、家庭と地域、企業と行政、あるいは家庭と地域と学校など、互いの信頼関係と連携を基軸として、市民全体が目標を一つにして立ち向かう気概を持つとともに、勇気ある改革が求められます。

この「信頼と勇気ある改革」を基本理念として掲げ、新しい玉名市として確固たる信念を抱き、県北をリードする都市づくりにまい進していきます。

# 第3章 将来像（都市像）

玉名市の将来像を次のように定めます。

## 『人と自然がひびきあう 県北の都 玉名』

玉名市民が豊かな自然を舞台にして、ひびきあう様子をいいます。ひびきあうにはこだまする（にぎわい、活気がある）、伝わる（伝統・文化が次世代に継承される）、影響しあう（市民が相互研さんし合い資質向上する）という意味があります。

県北の都とは、県北の拠点都市玉名そのものを示しています。

都とは、情緒豊かで誰もが住みたい、住みつづけたいと思う快適で暮らしよい場所、人々でにぎわい、人とものがいきいきと交流する自立都市・拠点都市をあらわします。

県北の都 玉名は、このように、県北の経済や文教の中心都市としてにぎわい、地方分権時代をリードするまちづくりを目指します。



三ツ川小学校 1年 吉村 美早紀さん

玉名市は、「信頼と勇氣ある改革」を基本理念とし、「人と自然がひびきあう県北の都玉名」の実現に向けて、次の3つの施策の展開を図ります。

### ●人と人、人と自然がふれあう交流の都づくり

玉名市は、有明海、菊池川、小岱山及び金峰山系の山々などの豊かな自然に恵まれています。なかでも、菊池川は古代より貿易港としての役割を担う水運で、経済交流、文化交流の拠点として繁栄を極めました。

今日では、さまざまな自然とのふれあいを通じて市民による地域コミュニティ活動が盛んに行われ、今後もより一層の活動が期待されています。

さらに、九州新幹線新玉名駅（仮称）の開業により鉄道、道路等の交通利便性が高まることで、多くの人を訪れ、にぎわいと活気が創出されることが期待されます。

このように、人と人、人と自然がふれあい、活力を生み出す「交流の都」づくりを進めます。

### ●市民がいきいきと輝き、安心して暮らせる快適な都づくり

玉名市は、豊かな自然に恵まれ、住む人々によりはぐくまれてきた地域の歴史・文化があります。

今後も、地域に誇りを持ち、人や自然への思いやりを大切にするとともに、地域の伝統や文化をしっかりと守り、はぐくみ、後世に受け継いでいきます。

また、これからの時代においては、すべてのひとにやさしいユニバーサルデザイン<sup>(※)</sup>を取り入れたまちづくりや、環境保全、少子・高齢化、子育て、防犯・防災などの意識を高め、安心して暮らせるまちづくりを進める必要があります。

このように、環境にやさしく、子どもからお年寄りまで元気で、いきいきと暮らせる「快適な都」づくりを進めます。

### ●市民の積極的な参加により、まちづくりを進める自立した都づくり

これからの玉名市においては、市民一人一人が主体的に学び・行動することができる生涯学習を進めるとともに、市民と地域の信頼関係と連携のもと、地域コミュニティの輪を広げたまちづくりが求められています。

また、行政においては、限られた財源のなかで、健全な財政運営を図りながら、魅力あるまちづくりを推進する必要があります。

このように、自己決定・自己責任において市民によるまちづくりと的確な行財政基盤の強化により、「自立した都」づくりを進めます。

#### 用語説明

##### ユニバーサルデザイン

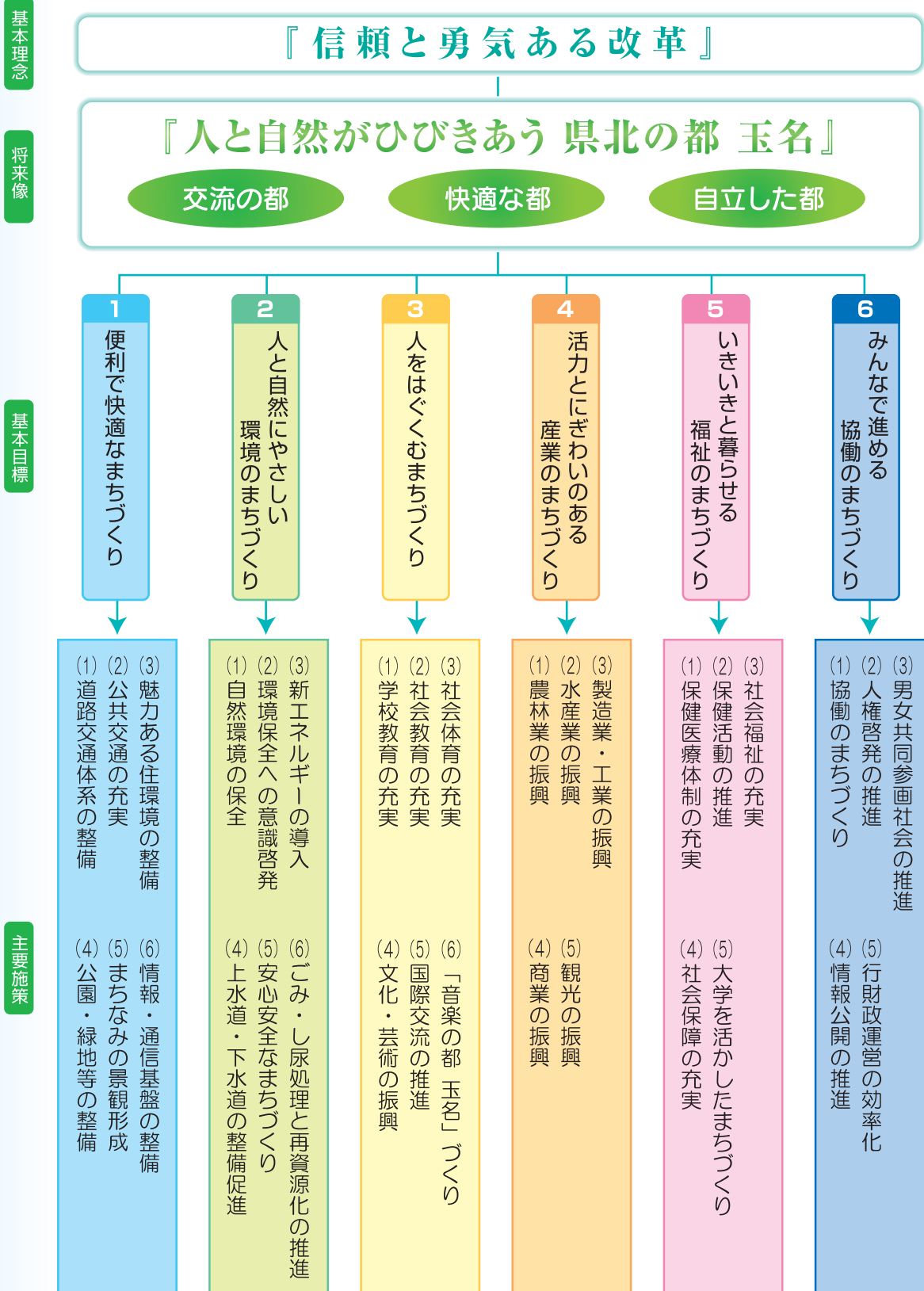
身体障がい者や高齢者を含む多くの人に利用できるように、最初から意図して、建築や機器、身の回りの生活空間等をデザインすること





# 第4章 基本施策

この基本施策は、将来の都市像を実現するために実施する6つの施策を体系化したものです。



基本構想

基本構想の目的

基本理念

将来像(都市像)

基本施策

目標人口と土地利用

### 基本目標1 便利で快適なまちづくり

広域幹線道路や地域間を結ぶ道路網の整備、公共交通機関等の整備を進め、市民にとって安全で高速性と連結性を満たした利便性の高い交通体系の実現に努めます。

また、良好な住宅の供給や住環境の形成を推進し、定住化や多様な世代間の交流の場の提供に取り組むとともに、公園・緑地などの整備を推進し、生活環境の整った安全で暮らしやすいまちの実現を目指します。

さらに、近年の情報技術の発達に対応して、高速通信のネットワーク化を積極的に取り組み、便利で快適な社会基盤の整ったまちづくりを進めます。

#### (1) 道路交通体系の整備

国道208号玉名バイパスの整備推進については、全線開通に向けて、地区住民や市民、行政が一体となり全力で取り組みます。

市民の交通利便性の向上を目指して、交通結節点へのアクセス道路や広域幹線道路である国道、県道の整備とともに、中心市街地を中心とする内環状線とその外環状線ともいえる、都市計画道路と市域内幹線道路のネットワークの整備を推進します。

特に、新市となり市域の一体化を図るため、中心市街地まで、市域内のどこからでも15分以内で到達できる「15分構想」を推進します。

また、有明海沿岸道路（Ⅱ期）計画の熊本～大牟田市間については、継続して早期着工を要望します。

#### (2) 公共交通の充実

九州新幹線の全線開業により福岡圏域まで30分圏内となり、生活圈や経済圏域が拡大されます。このため、その拠点となる約4haの新駅周辺の整備を開業までに完了し、JR玉名駅とのアクセスや広域バス路線網の整備、観光バス、レンタカーなどの新幹線と連動した二次交通の整備を行い、新幹線利用者の利便性を確保します。

路線バスは、コミュニティバス<sup>(※)</sup>導入など費用対効果も検討しながら、誰でも利用できる利便性の高い路線バスの再編、改革に取り組みます。



玉名バイパス

#### 用語説明

##### コミュニティバス

通常の路線バスでは対応が困難な、比較的少量のきめ細かい地域の公共交通需要に対応するために運行するバス



### (3) 魅力ある住環境の整備

住まいは、極めて重要な生活基盤であると同時に、健康や家族をはぐくむかけがえのない生活空間です。誰もが安心して生活できる住環境整備の実現を図るとともに、本市の均衡ある発展を目指し、九州新幹線開業や本市の魅力を最大限活かした定住の促進に努めます。

また、既存公営住宅の改築・改善を計画的に進めるとともに、長寿社会に対応した、シルバーハウジング<sup>(※)</sup>などの、高齢者から子どもまで多様な世代が居住し交流できる住環境づくりを推進します。

整備にあたっては、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した質の高い住宅の供給に努めます。

### (4) 公園・緑地等の整備

公園・緑地は、都市に潤いをもたらし、余暇活動やスポーツなど市民の憩いの空間であるとともに、安全快適な都市環境を形成するうえで重要な役割を担っています。

このため、公園、緑地などの整備推進と適正配置に努めるとともに、潤いある空間づくりを目指した「花の都 玉名」づくりを進めます。



蛇ヶ谷公園



桃田運動公園

#### 用語説明

##### シルバーハウジング

高齢者向けの設備・構造を備え、緊急通報システムなどが組み込まれた集合住宅

### (5) まちなみの景観形成

潤いある自然景観や周囲と調和したまちなみ景観は、市民生活に安心感とやすらぎをもたらし、訪れる人々の心をなごませてくれるとともに、街なかのにぎわい創出につながります。

このため、魅力あるまちなみ景観形成に向けた市民意識の高揚を図るとともに、景観形成基準の設定なども視野に入れた「景観のよいまちづくり」を推進します。

### (6) 情報・通信基盤の整備

公共機関や施設間を結ぶ高度情報通信網のネットワーク化を推進するとともに、産業や保健・医療・福祉分野、災害、観光、交通情報など多面的な情報サービスの提供や、予約や申請のオンライン化など利便性の高い行政サービスの提供に努めます。

また、携帯電話によるインターネットの利用など進展する情報通信技術を活用することでサービスの向上を図るとともに、個人情報保護や情報通信の安全性の確保に努めます。



立願寺・横町線



高瀬商店街風景



## 基本目標2 人と自然にやさしい環境のまちづくり

有明海、菊池川、小岱山及び金峰山系の山々などの豊かな自然は本市の特徴の一つであり、このかけがえのない財産を守り、後世に引き継ぐため、社会全体の連携した取り組みにより循環型社会を構築し、人と自然にやさしい快適な生活環境づくりを目指します。

また、消防や交通安全、防災等においても施設整備や体制強化などを積極的に推進します。

### (1) 自然環境の保全

かけがえのない豊かな自然を市民の財産として後世に残していくため、林地開発の開発監視体制のシステムづくりや、有明海の環境変化に対する調査研究など治山・治水事業や河川や海域の水質浄化を図ります。

また、菊池川流域の9市町による菊池川流域同盟の環境保全活動を核として、イベントなどへの「参加者3倍増計画」に取り組み、美しく親しみのもてる自然環境の保全に努め、「環境の先進地、環境立都 玉名」として全国へ情報発信していきます。

### (2) 環境保全への意識啓発

市民一人一人の意識と活動によって環境にやさしいまちづくりを推進します。

さらに、市民全体の取り組みとして発展できるように、環境学習や学校教育と連携した子どもへの環境教育、リサイクル活動、企業のISO14001<sup>(※)</sup>の認証取得の促進などを通して、市民や企業などに向けた環境問題の啓発を推進します。

また、地球温暖化防止や土壌、大気、水質等の汚染汚濁に対する監視体制の強化など環境保全に重点を置いた事業展開に取り組みます。

### (3) 新エネルギーの導入

地球温暖化対策として、また、増大するエネルギー消費対策として、二酸化炭素の排出が少ない新エネルギーへの転換を推進します。

新エネルギーの先進市として、市民一人一人が地球温暖化防止の認識を深め、行動を起こしていけるよう取り組みます。

具体的には、環境負荷の小さい太陽、風力、バイオマスエネルギー<sup>(※)</sup>などの導入について検討するとともに、子どもへの新エネルギー教室など市民への普及啓発や、太陽光発電に対する設置支援を検討するなど、市民や事業者による新エネルギーの導入に結びつくよう努めます。

#### 用語説明

##### ISO14001

1995年6月にノルウェーのオスロで開催されたISO総会で成立した国際規格で企業が社内に環境管理システムを構築際の手順を定めたもの

##### バイオマスエネルギー

生物体を原料にしたエネルギー資源の総称。地球の自然環境のなかで繰り返し得られるエネルギー



### (4) 上水道・下水道の整備促進

本市の上水道については、安全で良質な水を安定して供給するために、水源の確保と有効利用に努めます。

また、給水区域の拡張を行い、給水施設の整備と効率化を推進します。

下水道については、生活環境や公共衛生の向上、浸水の防止及び海や川などの公共用水域の水質保全に向けて、公共下水道、農業集落排水、浄化槽の各事業により地域の実情に適した整備を進めます。

### (5) 安心安全なまちづくり

防災意識の高揚を図るとともに、地域防災計画<sup>(※)</sup>に基づき、災害予防・災害応急・災害復旧などの対策に万全を期し、消防防災施設の資材や機材の整備と人材の育成を図るとともに自主防災組織等の充実・強化に努めます。

また、交通安全思想の徹底を図りつつ、自主防犯活動に対する支援を推進し、防犯に関する啓発活動と防犯体制の充実・強化に取り組みます。

### (6) ごみ・し尿処理と再資源化の推進

ごみの3Rであるリデュース（ごみの抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）を基本に、循環型社会システムの構築を目指します。

ごみについては、減量化、分別収集の徹底、不法投棄の防止、環境美化等を推進します。

また、し尿処理については、有明広域行政事務組合との連携した施設の整備を図るとともに、汚泥の肥料化を図ります。



鍋松原海水浴場

#### 用語説明

地域防災計画

地震・水害などの自然災害等の防止策や、避難所・連絡体制など緊急時の対応について定める計画





## 基本目標3 人をはぐくむまちづくり

生涯における人間形成の基本となる学校教育や社会教育、社会体育の充実を図るとともに、家庭教育の重要性を再確認し、次代を担う子どもたちの健全な育成を図ります。

また、文化・芸能、芸術の振興については、貴重な歴史的文化遺産の保存と継承を図りながら、新たな文化の創造に努めます。

さらに、国際交流を推進し、国際感覚が備わった人材を育成します。

また、市域内に音楽があふれる、「音楽の都 玉名」づくりを推進します。

### (1) 学校教育の充実

学校教育は、生涯における人間形成の基本となり、道徳観や学力などの基礎を着実に身につけるとともに、思いやりと責任感あふれる心豊かな人間性をはぐくむ場です。このため、子ども一人一人の個性を大切にし、生きる力を身につけ、国際化、情報化など社会の変化に対応できる子どもの育成に努めるとともに、地域に根ざした学校づくりを推進します。

家庭教育については、その重要性を再認識し、社会教育と連携し推進を図ります。

子どもの通学や校内での安全性の確保に努め、いじめや不登校など心の問題に対し細心の配慮をします。

教育施設の計画的な整備を図り、耐震診断など子どもへの安全性の確保に努めます。

また、国・県等が推進する中高一貫教育の導入についても、柔軟に対応した小・中学校教育のあり方を検討します。

### (2) 社会教育の充実

高齢社会を迎え、余暇時間の増大、価値観の多様化に対応するため、生涯学習の環境整備を図り、豊かな人間形成と生きがいのある学習機会の提供に努めます。

また、核家族化にともない、家庭内での育児や介護、道徳観の育成、郷土文化の継承など、家庭の本来持つ機能が低下しており、こうした家庭や家庭教育の役割を見つめ直すことの重要性について意識啓発を行うとともに、学校や家庭、地域が一体となり、社会教育推進体制の充実を図り、家庭における親子のきずなの形成や、基本的な生活習慣の習得など、地域や家庭の教育環境の向上を目指します。

### (3) 社会体育の充実

市民の健康と体力づくりを目指し、競技スポーツの推進とともに誰でも気軽に参加できる生涯スポーツを振興します。

また、各種スポーツ団体や体育指導者を育成するとともに、拠点施設の整備充実に努めます。

### (4) 文化・芸術の振興

貴重な文化遺産の保護と継承に努めるとともに、観光振興の観点も取り入れた多面的な事業の推進を図ります。

また、市民が文化に触れたり、身近に文化活動に参加する機会を増やし、郷土の歴史や文化・芸能、芸術に対する理解と愛着心をはぐくむとともに、後継者の育成を図ります。

### (5) 国際交流の推進

国際化時代に対応するため、市民が豊かな国際感覚と国際的視野を身に付けられるよう、諸外国との交流や海外研修の充実を図ります。現在、締結を行っている姉妹都市、友好都市との交流・協力の輪をさらに広げ、文化、スポーツ、経済など様々な分野での交流を推進します。

### (6) 「音楽の都 玉名」づくり

本市における音楽活動は、非常に盛んで高いレベルにあります。特にグレン・ミラー音楽祭は、全国でも唯一、玉名市だけがグレン・ミラーの名称を使用して開催できる音楽祭です。この音楽祭を核として、いつでもどこでも音楽が流れる、音楽にあふれた、「音楽の都 玉名」づくりを展開します。



天水中学校



## 基本目標4 活力とにぎわいのある産業のまちづくり ○

本市の主要産業である農林水産業や商工業、観光などの振興を促進するとともに、新しい産業の育成、新たな企業の誘致により地域の活力を伸ばします。

また、これらの産業の振興がまちのにぎわいにつながるための施策を推進し、地域に貢献する企業を育成・支援するとともに、安定した雇用の確保に努めます。

さらに、地域資源を活かした広域的な観光施策を展開します。

### (1) 農林業の振興

農業においては、安全で安心な農産物を提供するとともに、「玉名ブランド」の確立、生産性の向上の実現、農産物加工品づくりを促進します。

農業基盤整備を推進し、環境負荷の少ない自然循環型農業を基本とした若者から高齢者・女性まで営農意欲が高まり、観光産業との連携も強化した多様な農業を進めます。

また、水源かん養など多様な森林機能の保全と放置林の再自然化を進め、木材の利用・活用を促進する林業を推進します。

### (2) 水産業の振興

有明海や菊池川の豊かな自然と恵みを活かし、漁場環境の保全と効率的な生産体制の整備を進めます。

また、他の産業や関係機関団体との連携により、観光産業としての新しい水産業の創出も図ります。

### (3) 製造業・工業の振興

製造業・工業の振興は、市民の雇用の確保と創出を図る上で重要な役割を果たすことから、広域交通ネットワークの整備を推進し、また、工業団地の整備により誘致拠点としての有利性を確保し、優良な企業の誘致活動を推進するとともに地場企業の育成を推進します。

### (4) 商業の振興

商業においては、郊外のロードサイド店や大型店への客層の流出に対応するため、個々の商店や商店街の魅力アップだけではなく、まちづくりとしての理念を基に、観光産業などの他業種や関係機関と連携を図ります。

さらに、インターネットを利用した販路の全国展開など、時代に応じた商業の振興に向けた取り組みへの支援を行います。

また、国・県等の支援策を利用して、市街地に点在する空き店舗や空き地の再生と有効利用を図るなど、早急な活性化策に取り組みます。

### (5) 観光の振興

観光については、豊富で魅力ある観光資源を最大限に活かすとともに、九州新幹線全線開業を絶好の機会とし、広域的観光施策を展開するほか、国際観光も視野に入れ関係機関との連携による振興策を推進します。

特に、観光振興の核となる温泉街の振興は、玉名温泉活性化ビジョンを柱とした活性化策を展開するとともに、豊かな歴史、自然及び地域の伝統や文化を活かした新たな観光素材の発掘にも取り組みます。

産業祭でのアサリのつかみ取り



海苔の採取



稲の刈取



## 基本目標5 いきいきと暮らせる福祉のまちづくり

乳幼児期から高齢期までの市民の生活を総合的に支援するための保健や医療、社会福祉、社会保障の充実やユニバーサルデザインの推進など、すべての市民が健康で安心していきいきと暮らせる先進的な福祉のまちづくりを目指します。その実現にあたり、九州看護福祉大学との積極的な連携による人材の育成に努めます。

また、少子・高齢化への対応については、子どもや高齢者、障がい者などに対して、地域で支えあう環境づくりを推進します。

### (1) 保健医療体制の充実

保健と医療については、医療施設の機能分担を図り、救急医療体制と円滑な災害時の医療体制を整備します。

また、個々の疾病に応じた医療対策と、保健・医療・福祉の体制づくりに取り組むとともに相互の連携強化に努めます。

### (2) 保健活動の推進

乳幼児から高齢期までのすべての世代に向けて、自分の健康は自分で守るという自己管理意識の高揚を図るとともに、各ライフステージ<sup>(※)</sup>に適した保健活動や健康教育、相談活動、介護予防などの取り組みを推進します。

### (3) 社会福祉の充実

社会福祉においては、延長保育や放課後児童健全育成、職場内保育など保育体制の充実を図るとともに、地域子育て支援センターを拠点とした支援グループの育成、及びファミリーサポートセンターの設置などを推進します。

また、元気な高齢者がいきいきと暮らせるように、まちづくり活動などへの社会参加を促進するとともに、介護を要する高齢者への個々人に対応した介護支援を推進します。

障がい者等に対しては、自立を目指した多様な支援に努めます。

九州看護福祉大学との連携による研究開発や人材育成を推進するとともに、地域で支えあう体制づくりを支援し、すべての人にやさしいまちづくりの実現に向けたユニバーサルデザインを推進を図ります。

#### 用語説明

ライフステージ

幼児・少年・青年・壮年期等、人間の一生の間におけるそれぞれの段階



### （４）社会保障の充実

社会保障については、介護保険業務の円滑化を図り、市民ニーズに的確に対応します。

また、国民健康保険と国民年金制度に対する市民への理解と普及・啓発に努め、制度の健全な運営とともに、国民年金加入者の受給権の確保に努めます。

低所得者等においては、生活指導相談体制を充実し、多様化する個別事情に適切に対応します。

### （５）大学を活かしたまちづくり

先進性のある福祉事業やまちづくり活動を総合的に推進するため、九州看護福祉大学などと連携し、専門性を活かした共同の研究システムの構築や学生の若々しい独創性のあるアイデアを活かしたまちづくりに取り組みます。



保健活動





## 基本目標6 みんなで進める協働のまちづくり

本市の行財政運営の効率化に努め、今後も増加すると予測される多様な市民ニーズに柔軟に対応できる体制を整備します。

また、情報公開や市民参加等を通して、市民にとって行政を身近に感じることでできるまちづくりを目指します。

さらに、行政施策だけでなく、各地域やボランティア団体等における市民同士の信頼を深め、自主的な地域運営を確立し、市民主体のまちづくりを目指します。

### (1) 協働のまちづくり

市政やまちづくり活動において、市民参加は不可欠であることから、玉名21の星事業の積極的な推進をはじめ、市民がまちづくり活動に気軽に参加できる仕組みづくりに取り組みます。

また、団体等の活動やコミュニティづくりを支援するとともに、ボランティアリーダーなど人材育成に努めます。

### (2) 人権啓発の推進

基本的人権を尊重する社会実現を目指して、学校教育や社会教育などのあらゆる場面において、様々な人権問題への啓発に取り組み、明るいまちづくりを進めます。

### (3) 男女共同参画社会の推進

社会のあらゆる分野において、性別にかかわらず平等に社会参画できる社会づくりを推進します。

### (4) 情報公開の推進

市民に分かりやすく開かれた行政運営を目指して、広報・広聴活動と適切な情報公開を推進します。



市政懇談会

### (5) 行財政運営の効率化

行財政運営においては、組織機構の見直しや事務の効率化、情報化の推進など計画的で効率的な運営に努めます。特に行政改革については、行政改革大綱の策定を通し、本構想の基本理念である「信頼と勇気ある改革」の実現を目指します。

また、財政基盤の強化のため、自主財源の確保に努めるとともに、施策の効率的な執行と、適切な進行管理を実施し、その必要性や成果を客観的に評価する仕組みづくりに取り組みます。

また、職員の適正な定員管理と研修計画を策定し、資質の向上を図ります。

広域行政については、歴史的・文化的なかわり合いや、住民や行政同士の連携が深い有明広域圏を中心に、行政運営の広域化に向けて継続して取り組みます。



滑石小学校 3年 蓑田 千泰さん



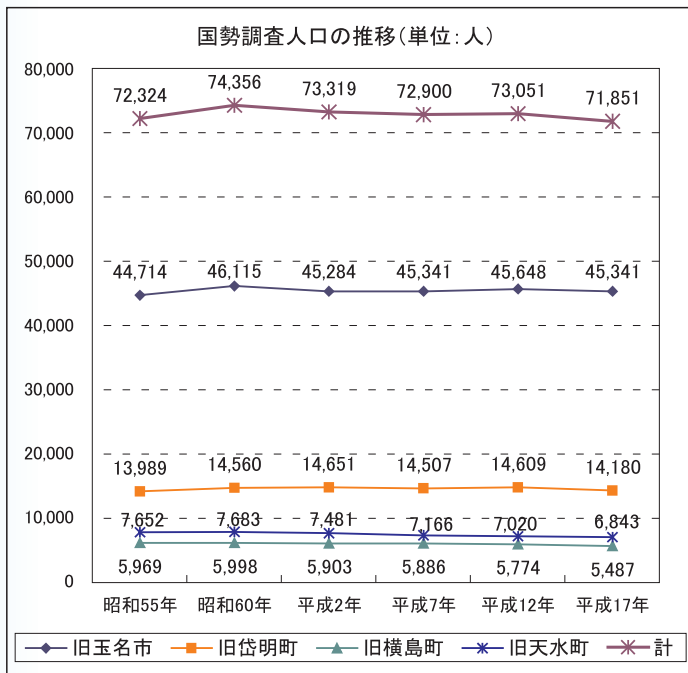
# 第5章 目標人口と土地利用

基本構想  
基本構想の目的  
基本理念  
将来像(都市像)  
基本施策  
目標人口と土地利用

## (1) 目標人口

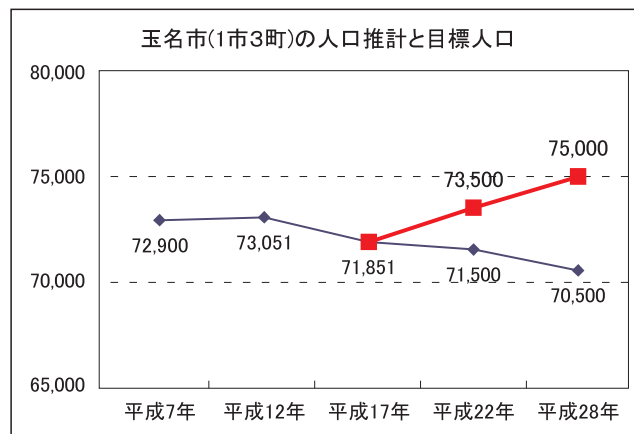
玉名市の人口の推移を見ると、平成17年の国勢調査人口が71,851人となっており、平成12年から減少しています。

また、平成12年と平成17年の国勢調査人口をもとに、平成28年の人口を推計すると、70,500人程度となります。




本市は、九州新幹線全線開業による交通拠点機能向上の効果を活用し、駅周辺の整備や企業誘致の促進などの都市機能の充実を図るとともに、住環境の整備や子育て支援の充実などによる定住化の促進、広域観光の推進などに取り組み、魅力あるまちづくりを推進します。

こうした積極的なまちづくりを通して増加する政策人口を4,000人程度と設定し、「第1次玉名市総合計画」において、目標年次である平成28年の目標人口を75,000人とします。



## (2) 土地利用方針

ゾーン		土地利用の方針
市街地 ゾーン	住宅、商業、サービス業、教育・文化、業務等の都市的機能の整備を重点的に進めるゾーン	主要な交通結節点であるJR鹿児島本線玉名駅及び九州新幹線新玉名駅（仮称）の周辺地域では、アクセス道路の整備をはじめ、流通、商工業、サービス業等を中心とした立地の誘導を図ります。
田園 ゾーン	基幹産業である農業の振興を重点的に進めるゾーン	合理化、高度化、共同化等を積極的に進め、九州縦貫自動車道インターチェンジを活用し、農産品の流通拡大に努めます。 また、豊かな地域資源を活かしてグリーンツーリズム <sup>(※)</sup> 等の体験交流による農業の振興を図ります。
中山間 ゾーン	森林の多面的機能を活かした保全と整備及び中山間地域の農業振興を重点的に進めるゾーン	山地災害防止や水源かん養、多様な生物の保全、生活文化、木材の生産、保養レクリエーションなど、森林の多面的な機能の保全と整備を図ります。 また、集落営農等の生産体制の構築を図り、農業農村の維持発展を促進します。
臨海 ゾーン	有明海の自然を活用した水産業及び臨海レクリエーションの振興を進めるゾーン	漁場の保全と整備を進め海苔やアサリ等の水産業の振興を推進します。 さらに、有明海の景観を活かした保養レクリエーションや観光漁業等の振興を図ります。

交通結節点		土地利用の方針
 交通結節点	JR 玉名駅周辺（中心市街地）	行政、商業機能の集積する中心市街地の利便性を市民が活用できるように、また、市内及び周辺地域との交流を促進するよう、JR鹿児島本線、国道208号などの利便性を活かします。
	新幹線新玉名駅（仮称）周辺	新幹線新玉名駅（仮称）の開業に合わせ、交通結節機能の充実や周辺市街地の整備を図り、新たな都市拠点の創出を図ります。

### 用語説明

グリーンツーリズム

農山漁村に滞在し、農林漁業の体験やその地域の自然や文化にふれ、地元の人々との交流を楽しむ余暇活動



土地利用方針図



基本構想

基本構想の目的

基本理念

将来像(都市像)

基本施策

目標人口と土地利用